

# 【小施策評価(平成29年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	子ども青少年課	
施策	2	子ども・子育て、若者への支援	評価 責任者	壽 俊行	内線 6411
小施策	2-6	児童・青少年の健全育成	評価 シート 作成者	佐久山 久美子	内線 6412

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
家庭や地域の養育力が低下し、子ども・若者を取り巻く環境が悪化しているため、児童虐待やいじめ、少年による重大事件の発生、有害情報の氾濫などの問題が生じており、家庭環境や大人社会のあり方を改善しながら子ども・若者の健やかな成長を図るため、豊かな人間性の育成、基本的な生活習慣の形成、学力・体力の向上等の取組を実施する必要がある。		一人ひとりの個性を伸ばし、心豊かで逞しい児童・青少年の育成を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(対象をどのようにしたいのか)
子ども		健全育成が図られる。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価		
				成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 補導件数	単 位	目指す方向				
	人	↘				
当初値 (H25)	194	H31目標値	150			
		H36目標値	150			
<p>・少年センターの街頭巡回において、多くの子どもたちに声かけをすることで、少年非行の未然防止と早期発見に結びついた。</p>						・巡回活動時間帯の見直しや季節や祭事に応じた巡回エリアの設定をしたため。
<p>・困難や悩みを抱える少年の現状が見えにくくなり、インターネット利用から犯罪に巻き込まれる事案も増加している。</p>						・スマートフォンが普及し、インターネット利用が低年齢化している。
<p>・補導後の対応や情報共有について、関係機関との連携・通報の措置方針が決まっていない。</p>						・インターネットの弊害について十分理解されていない。
<p>・少年センターで受ける相談件数が減少している。</p>						・補導後の対応等について、関係機関との連携・通報の措置方針を決める必要がある。
						・相談機関の周知が不足している。
				問題点	⇒	問題の要因分析

## 今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
<p>★ 出前講座の開催などにより、インターネット利用の弊害について普及啓発を図る。</p> <p>★ 毎年少年センターで発行している「悩み相談カード」の配布対象を広げ、相談機関の周知を図る。</p> <p>★ 子ども家庭総合支援センター及び青少年相談員との連携を図り、相談体制を強化する。</p> <p>★ 補導後の措置方針を定め、学校など関係機関への周知・連携を図る。</p>	